三田市教育委員会　　令和４年度夏休み号

学校司書だより

夏休みこんな本がおすすめ（３・４年生）

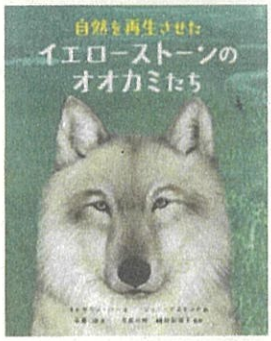
いよいよ夏休みが始まります。小刻みにしか取れなかった読書の時間がとりやすい絶好の機会です。さあどんな本を読もうか。迷っている人に学校司書からのおすすめ本を紹介します。これらを参考に充実した読書生活を送ってくださいね。

読み終えたら「読書通帳」に記録しましょう。

「けんかのたね」

ラッセル・ホーバン:作　小宮 由：訳 大野 八生:絵　岩波書店

ある日の夕方、家の中は大さわぎ。いぬはねこをおいまわし、４人きょうだいは大げんか。わけをきいても、口ぐちに自分のせいじゃない！と言うばかり。いったい何があったの？仲なおりできるの？誰もがどこか身に覚えのあるような…楽しい童話です。



「自然を再生させた イエローストーンのオオカミたち」

キャサリン・バー:作 ジェニ・デズモンド:絵 永峯　涼:訳
幸島司郎・植田彩容子:監修　　化学同人

1930年代、アメリカのイエローストーン国立公園からオオカミがいなくなると、生態系がくずれはじめました。しかし、1995年にオオカミが公園に戻ってくると…？荒れた自然に放たれた14匹のオオカミたちが起こした奇跡のような物語。全ての生きものが地球上で重要な役割を果たしている事を教えてくれます。

「アフガニスタンのひみつの学校～ほんとうにあったおはなし～」

ジャネット・ウインター：作 清末愛砂：解説 福本友美子:訳　さ・え・ら書房

今から20年前に本当にあった話として語られるこの事実が、決して過去ではないことを、今、あなたに知ってほしい…そんな強い願いが聞こえてきそうな2022年3月の新刊です。「今もアフガニスタンの地で、自分たちの権利を必死で守ろうとしている女性たちがいることをどうかわすれないでください。」女性人権問題研究家の清末愛砂さんの解説も心に響きます。

「しまのないトラ」　斎藤洋:作 廣川沙映子:絵　偕成社

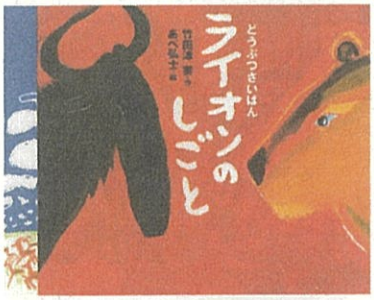
足のあるヘビ、しまのないトラ…仲間とどこかちがった所があって悲しい思いをしていたけれど、考えること、努力すること、そして勇気を持つことで自分を大切に生きていく。そんな動物たちのお話です。

「セラピードッグのハナとわたし」
掘直子:作 佐竹美保:絵　　文研出版

小学４年生の花菜は、おばあちゃんがいる老人ホームでセラピードッグ見習のハナちゃんに出会いました。ハナちゃんは泣いているみたいな淋しい目をしていました。どうしてかな？訓練もうまくいかないハナちゃんが気がかりな花菜はハナちゃんの力になりたいと思います。ハナちゃんは無事セラピードッグになれるのでしょうか…。

「ぼくの師匠はスーパーロボット」
南田幹太:作　三木謙次:絵　　佼成出版社

人型、犬型、妹タイプ…いろいろなロボットをクラスのみんな持っています。順一もやっと念願のロボットを手に入れました。それは、大特売の人型ロボットおじいちゃんタイプ。でもおじいちゃんロボットとの生活は、何だか思っていたのとは違っていて返品することになったのですが…大切なことを気づかせてくれる楽しく温かいお話です。



「ライオンのしごと」竹田津実:作 あべ弘士:絵　　偕成社

タンザニアの草原。イチジクの木のもとで、ヌーを襲ったライオンが裁判にかけられる。訴えたのは、お母さんを殺されたヌー。「ころしてほしい。たべてくれー。」とヌーが言ったというライオンのお母さん。「ライオンは動きのおかしいものか、弱ったものしか殺せません。」とハゲワシ。全ての動物たちが生きていくために必要なライオンの仕事の意味を教えてくれる絵本。

「口で歩く」　丘修三:作 立花尚之介:絵　　小峰書店

タチバナさんは、20歳を過ぎているけどずっと寝たきりで、体も小さな子どもみたい。でも、暗くなったり、くじけたりはしない。いつも散歩に行く。特製の車輪付きのベッドで、道ゆく人に押していってもらうのだ。一人では何もできず、支えてもらってばかりのような人も実は誰かを支えてくれている。人と人とのつながりをあたたかく描いた物語。

「からだのほん」メアリ・ホフマン:ぶんロス・アスクィス:絵
すぎもとえみ:訳　少年写真新聞社

赤ちゃんから子どもに、子どもから大人へ、こころもからだも成長していく。からだつきは人それぞれだし、お互い違うところもあるけど同じところもいっぱいある。どこが同じで、どこが違うんだろう。「からだ」について様々な角度から考えさせてくれるユニークな絵本「みんなちがってみんないい」金子みすゞさんのそんな言葉が思いだされた。